

2017年8月1日

公立大学法人長野県立大学評価委員会御中

沼尾波子

公立大学法人長野県立大学（仮称）の中期目標に関する意見

第1回評価委員会を所用のため欠席させていただきます。当日の協議事項となります中期目標について、書面にて意見を申し述べさせていただきます。

資料を拝見した上で一番感じたことは、地域特性が見えなかったという点です。長野という地で、県が設置した大学として、その地域特性をどのように研究・教育に活かすのか。また、大学が地域に開かれた大学としてどのような貢献を果たすことを目指すのか。こうした視点から、大学の目指す方向性が見えませんでした。参考資料1（大学の概要）の内容は、すでに多くの大学が行っている取組みとの違いが見出せず、県立大学において、どのように他大学との差別化を図りたいのかが見えませんでした。地元企業や地域社会との繋がりなど、地域における大学の役割や、地域とのつながりを通じた教育・研究の広がりなどを、長野県の文脈で打ち出していくことが、他大学との差別化にもつながり、また県民の理解や共感を得られる教育研究機関として認知されていくことにつながるものと考えます。

具体的には、以下の3点について考えてみるのが大切ではないかと思います。

（1）大学の理念と基本方針についての明確化

中期目標を取りまとめるに際し、改めて大学としての研究・教育・社会貢献等に関する理念を記しておくことが大切であると思います。その際には、研究・教育に関する自由な発想を生み出すための柔軟性を損なわないことは勿論ですが、大学の使命ならびに期待される役割について明記することが大切だと思います。特に、「長野」に立地し、長野で行われる学びや研究の意義について、（どこまで明文化するかはともかく）考えておくことが大切だと思います。

（2）「教育研究等の質の向上に関する事項」について

中期目標において資料5のように大項目を設定するとした場合、はじめに、教育研究におけるミッション（どんな学生を育てたいのか、どのような研究機関として機能することを目指すのか）を記した上で、基本構想にある特徴的な取組内容+それによって期待される成果を記述してはどうでしょうか。

（3）「その他業務運営に関する重要事項」について

「施設設備の整備・活用等」について、地域に開かれた大学という視点に立って、何ができるのかを考えてみてはいかがでしょうか。また「安全管理」については、寮生活の中での安全管理や、海外研修期間中の安全管理に関するマニュアルの策定などをしっかりと行っておく必要があります。

以上